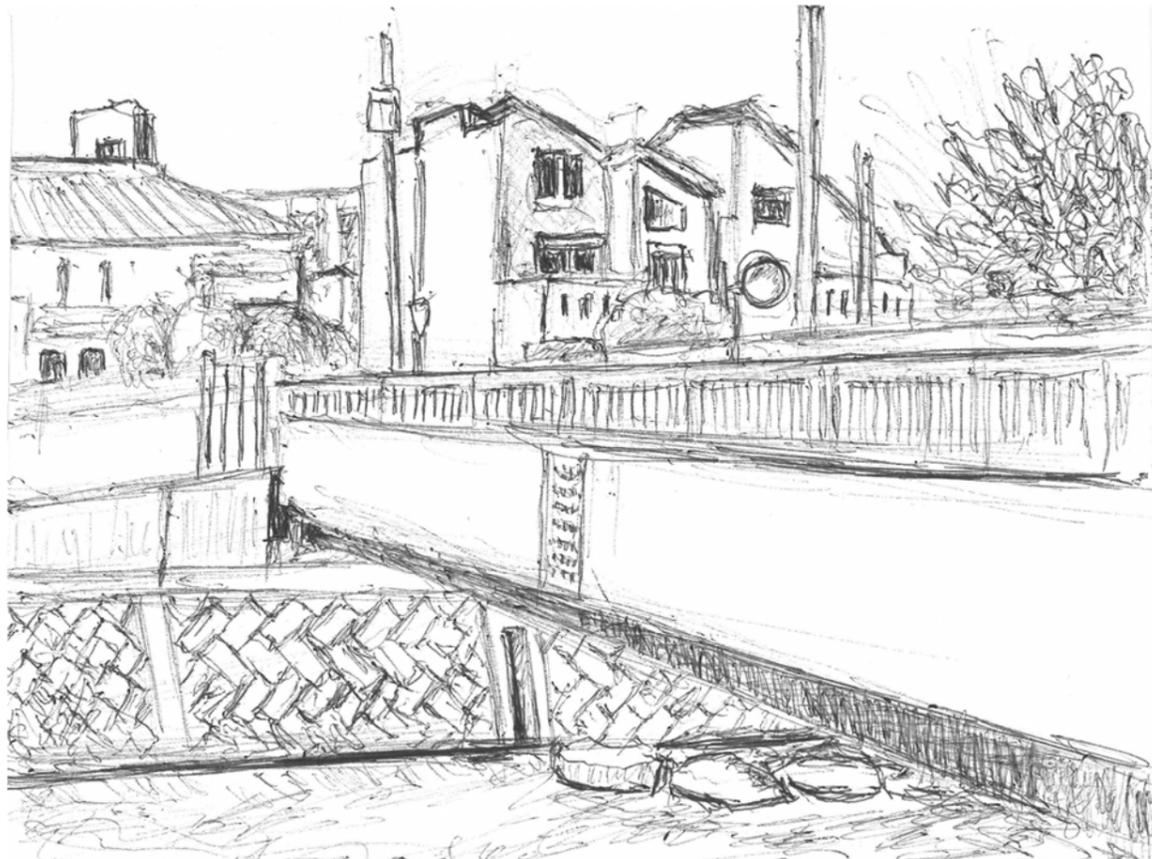


いたちかわらばん

通刊 84 号 鮪川・狹川 / 川原番・瓦版 '20 夏号



【ペン画 宗森英夫】

「下流左岸より見た海里橋」

日本の川と海

日本は島国なので、海に囲まれており、多くの川は海に注いでいます。(例外として、琵琶湖など湖に注ぎ海と繋がっていない川もあります)そのため産卵を目的に川を登ってくる魚もいます。サケやマスは有名で、川の中流で産卵し、孵化した稚魚が成長しながら海へくだり、海で成魚となります。

一生を川で過ごす魚を「川魚」と呼び、川と海との間を往来する魚を「回遊魚」と呼んでいます。

イタチ川では、コイ、フナ、ハヤ、メダカ、ドジョウ等が川魚で、ウナギ、イナ等が回遊魚です。

イナは出世魚と言われ、イナ→ボラ→トドと呼ばれ名が変わってきます。トドが最後で、それより上はありません。そこから「とどのつまり」という言葉が生まれたと言われています。

イナやボラの時代には、川(淡水)で過ごしますが、トドは海(塩水)で過ごします。トドの卵はカラスミと呼ばれる珍味な食べ物で高級な酒の肴です。

いたち川で見られる貝としては、シジミ、カワニナ、タニシくらいですが、タニシは、流れが弱く泥の溜まった所を好み、シジミは流れの緩やかな砂地を好みます。カワニナは本流よりも支流の小川に多く見られます。

昆虫もミズスマシやアメンボ、ゲンゴロウ等の成虫もいますが、トンボの幼虫のヤゴ等が、流れの緩やかな所、小川や池に多くいます。

このように見ると、川には、色々な生物が棲んでいることが分かります。川は生き物の母でもある訳です。「母なる川」はかざり文句ではないのです。

(いもり)

☆いたち川点描☆

兩岸のケヤキの潔いほどの裸木が空を大きく見せてある冬枯れのいたち川、枝股に残る鳥の巣に、どんな鳥が?と思ひ巡らせるのも一興。そして、間もなくの春のいつせいの芽吹き。息をのむばかりの花々の饗宴、「き・れ・い」としか言えない語彙の乏しさはふがいなく。ハコネウツギの白からピンクへと変わった花色は、昆虫の訪ないがあった印。白抜きの花を手にし、白く地味な房状の花を引き立てるかのように昆虫たちを招く半夏生の長い帯、しばし、旧暦の世に生きているような幻想の一幕。緑陰がさわやかな風を呼ぶ夏。金・銀木犀のあふれだす香り。色づいた葉と競いあう赤い実も鮮やかなガマズミ。びっしりと朱赤の実をつけたピラカンサは、オナガに大人気。くちばしで、散り敷くわくら葉を一枚ずつよけては、隠れている虫を探しつばむムクドリ。

小長谷橋もとに佇む小さな阿弥陀如来像、どなたがされるのか、いつ見ても掃き清め供えられた季節の花、道行く人が手を合わせていられる祈りの一隅。

いたち川の真骨頂は、扇橋の水辺、稻荷森の水辺、

坊中の水辺などの豊かな親水域。増水時は遊水地となり、穏やかな日常では、人々や子らをゆるやかに水辺へといざない、心地よいせせらぎをかなでる遊び心いっぱいの幾筋もの流れ。

左岸側には、かつてのいたち川の姿をとどめる旧河道があり、旧家の多い土地柄ゆえの緑濃く小暗い屋敷林が川面を覆うように枝を張り、時に、風が強い日の竹同士がこすれ合い立てる不協和音が、不気味さを添えてうっそうの竹林。

川の流れには、瀬も淵もあって一様ではなく、それぞれを好む魚たちが棲み分けている様子。その小魚を求め、一瞬のダイビングでみごとキャッチのカワセミ、長い脚で立ち、優雅にくちばしを使うコサギやアオサギ、お尻を天に向け首を水中に突っこみ、狩猟に励むカモとカワウの愛嬌。

特に中流域・石原橋・天神橋の、歩いて歩いても歩いても尽きない魅力、実は、在来の川の姿、植生を活かしつつ、人をも含むいきものたちのいずれもが、心地よく共にあれと企図した綿密なプランのもと、生まれ変わったいたち川、だからこそ。

(寝ても覚めてもいたち川)

☆いたち川右支川ウオーキング☆

春に計画したウオーキングは、新型コロナの影響で中止しましたが、今回改めて計画いたしました。

いたち川右支川沿いの本郷ふじやま公園と鍛冶ヶ谷の古墳群まで歩いてみませんか。

日時: 令和2年10月27日(火)
栄区役所(10:20) 出発→本郷石橋→駒形堂橋→長慶寺→馬頭観音の石標→本郷ふじやま公園(長屋門見学)→鍛冶ヶ谷市民の森(25基の古墳)解散予定
*雨天やその他の事由により中止の場合は、前日ご連絡します。

集合場所: 栄区役所 本館玄関前

集合時間: 10:00

参加費: 100円(保険料等)

持ち物: 飲み物、昼食(自由)、雨具

参加人数: 20名(先着順)

参加要領: 参加希望者は、葉書、メール、FAXで住所・氏名・性別・電話番号を明記の上、令和2年9月30日(火)までに下記に応募して下さい。(当日消印有効)

応募先: 〒247-0005 栄区桂町303-19
(電話) 894-8161 (FAX) 894-9127
(アドレス) sa-kikaku@city.yokohama.jp
栄区役所区政推進課企画調整係 佐藤

※内容については、和久井(いたち川OTASUKE隊、080-3498-0552)まで

発行: 狹川OTASUKE隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局・栄区役所区政推進課企画調整係

〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

栄土木事務所下水道・公園係

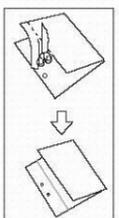
〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

(お便り・お問い合わせはこちらまで)

発行年月
2020年7月

通刊 84 号

この部分を
切り取って
ファイルにす
ると便利です



初版「いたち川情報マップ」の紹介 第11弾!!

平成8年（今から22年前）に初版「いたち川情報マップ」発行！
いたちかわらばん71号から順次紹介しています



○いたち川情報マップ（いたち川中流域）

昔は、いたち川の水の恩恵によって水田が広がっていた地域で、昭和40年代までは蛇行していた河川でしたが、上流部の宅地開発が進んで来ると、この地域は頻りに洪水が起き、昭和50年代になって現在の改修工事が進んできました。旧河川敷は花ノ木橋公園、新橋公園、いたち川公園となっています。

◇いたち川プロムナード

河川の両岸には、2m前後の幅で歩道が設けられています。河川には、増水時の水害を防ぎ、震災や火災時の水源として市民の命や財産を守る機能があります。その大事な機能を維持するための河川構造として管理道路が設けられました。平常時の活用として、区民の健康を増進させるウォーキングや散歩中に自然と触れ合うことにより、川に親しみと理解を得ることを目的にプロムナードとしています。

◇海里橋

海軍燃料廠が出来た後に架橋したと思われるが、名前の由来は、1カイルから海里にしたとか、海軍燃料廠と里を結ぶ橋であったことから等、いろいろな説があります。

◇花ノ木橋

花ノ木公園は旧河川敷を公園にしたもので本郷中学が出来た時に生徒の利便性から新たにできた橋です。

◇新橋

この橋は明治初期に発行された「相模国鎌倉村誌」の小菅ヶ谷村の橋梁の項に、戸塚より鎌倉に通す長さ6間3尺（約12m）とあり唯一官費で維持する重要な橋であったと思われます。

◇道標・延命地蔵

新橋の右岸側に並んで道標と地蔵が祭られています。道標には、「これよりとつかじゆく」反対には「これよりさきぐみようじ」と書かれており、鎌倉街道の起点となっていることがわかります。

延命地蔵が何故祭られているのか定かではありませんが、富山県のいたち川には20件以上の延命地蔵があり、難病が流行った時にこの川沿いの湧き水で村民が助かったと言われています。



◇警察学校

昭和42年に米軍PXより返還後に警察学校、消防学校（現在あーすぷらざ）、高等学校が建設されました。学校前のいたち川には十月桜が植えられ右岸側の暗渠からは栄第一水再生センターからの排水路となっています。そこに架かる橋（無名）を泪橋と呼ぶ人もいるのは警察官の卵たちが寮に入るときに流した涙にちなんだものと言われています。

◇コイ

たくさんいるからって、気味悪いという人もいるけど、私達の罪ではないわ。水の汚れや蚊の発生を抑えてきたし、餌をくれる人たちだって多いわ。人間の勝手に放たれたのはアヒルやアイガモもおなじこと。よくかんがえてね。

◇アオサギ

魚を餌にする大きい鳥の仲間もくるよ。魚が増えると、鳥の種類も増えるんだ。大きい生き物を支えるにはその下に豊かな自然が必要だね。

◇ヒヨドリ

「ヒー、ヒーヨ、ピールリピ」護岸に下がるベニシタンの実は僕たちの好物だよ。

編集後記

本号（84号）は3月に配布する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で配布施設が閉鎖され配布が出来ませんでしたので今回内容を再編集し発行致しました。

85号も引き続き、いたち川情報マップの紹介を継続して下流域を解説いたします。（水・人・子）

「栄区愛護会&ハマサポの集い」
「公園愛護会・水辺愛護会・ハマロード
サポーターの団体表彰式と活動発表」

標記の各ボランティア団体の表彰式と活動発表が、主催 栄土木事務所により、令和元年十一月二十四日、栄公会堂で開催されました。星崎区長の挨拶、表彰団体紹介、表彰式に続いてそれぞれの表彰団体のうち一部の活動発表がありました。

区長挨拶で、令和元年度の横浜市の各ボランティア団体で表彰された栄区団体に對し、改めて清掃や除草など維持管理に貢献されたことが讃えられました。

また、これらの公園愛護会、水辺愛護会、ハマロード・サポーター表彰団体に栄区内での顕著な貢献の実績を積み重ねた方々に記念品が手渡されました。

【各ボランティア団体表彰者（敬称略）】

- ① 『矢沢なかよし公園草地広場愛護会』
- ② 『矢沢なかよし公園自由広場愛護会』
- ③ 『飯島せせらぎ愛護会』
- ④ 『いたち川（稲荷森の水辺）水辺愛護会』
- ⑤ 『住友電気工業（株）横浜製作所
ハマロード・サポーター』
- ⑥ 『遊歩道北本郷台
ハマロード・サポーター』
- ⑦ 『道（株）ニコン横浜製作所
ハマロード・サポーター』

続いて表彰団体のうち三つの団体から活動発表が行われました。この集いに参加された方と聴衆は二百人ほどで、表彰と活動発表の都度、感謝と敬意と応援の拍手が栄公会堂いっばいに響きました。

◎ 『矢沢なかよし公園草地広場』の活動では、草刈りや清掃と花壇づくりなど美化維持ほか栄土木事務所による清掃機材操作研修やテレビ広報を行っているということです。公園を軸にボランティア活動を通じて地域で交流し楽しもうという意欲が感じられ素晴らしいと思います。

◎ 『飯島せせらぎ愛護会』は飯島市民の森を流れるせせらぎ緑道の愛護会です。ボランティアの確保や飯島町内会との連携など工夫をしていること、親しまれる緑道づくりのため地道で根気のいる活動をしていることがしっかりと伝わってきました。作業用品の整頓など活動しやすいように色々と考えてやっていることはとても参考になると思いました。

◎ 『住友電気工業（株）横浜製作所』の報告では、会社概要でワイヤハーネスや光ファイバーケーブルなど興味のある話から始まりました。当地ではハマロード・サポーター活動柏尾川プロムナードの清掃活動ですが、ほかの工場では、造林など地球環境に配慮した活動など、地域交流を図っているということですね。親しい企業住民という感じでした。

感謝の拍手をあらためてお送りします。
昨今の大雨による川の氾濫や洪水など自然災害を考えると、区役所と土木事務所の役割はもちろんのこと、地域行政の区割を超えた流域全体の住民による役割、活動と交流に解決策があるので注目されています。

みなさんのご健闘を祈念いたします。
(うめおきな)